

現場に普及できる食品残さを活用した飼料の給与技術

うどんやジャガイモなど6種類の食品残さを家畜の飼料として有効活用するための試験を京都大学と共同で実施しています。

これまでの結果をもとに、乳牛が好んで食べる割合に食品残さを混合した飼料を試験牛に2か月間（1頭当たり1日70kg）給与しました。乳牛が食べた量や生産される乳量や乳成分などの結果から、飼料としての利用性及び効果について確認し、酪農家での普及を目指します。



食品残さ6種類の混合飼料(左)と乳牛への給与試験の様子(右)